

## ①編修趣意書（教育基本法との対照表）

受理番号	学校	教科	種目	学年
28-8	高等学校	国語科	古典B	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	古B・333/334	高等学校古典B 古文編／漢文編 改訂版		

### 1. 編修の基本方針

改正された教育基本法第二条に示されている教育の目標をふまえ、教材の選定・作成および構成・配列について、以下の点を基本方針としました。

1 現代に生きる人間として、生徒たちが自らの思考力、認識力を高め、人生、社会、言語について思いを深めることができる教材を精選する。

2 人間の普遍的な生き方や心情を情緒豊かに表現した作品を教材化し、感受性・創造力を高めることができるよう配慮する。

3 日本の言語文化の諸相を幅広く取り上げ、さまざまな角度から言語文化の諸側面にふれ、日本の伝統文化にふれることができるよう配慮する。

4 日常生活において、適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高め、必要な言語能力を確実に身につけられる教材を精選する。

5 体系的な知識の習得と自発的且つ継続的な学習が可能となるよう、構成・配列を工夫する。

### 2. 対照表

図書の構成・内容(教材名)	特に意を用いた点や特色 (〈〉内は教育基本法からの引用)	該当箇所
<b>古文編</b>		
枕草子	昔の人々の生活の様子や考え方などを読み取り、筆者の美意識や感性に触れることによって、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うことを目指した。【第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。】  昔の人々が、自然や四季の風物をどのように捉えていたのかを読み取ることで、生命を尊び、自然を大切にすることを養うことを目指した。【第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。】	P.12～18, P.120～136
竹取物語	我が国最古の「物語」と評される作品を読むことで、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、真理を求める態度や豊かな情操を培	P.62～71, P.137～174

	うことを目指した。〈【第 1 号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。】〉	
徒然草	筆者の人間を見る目、ものの感じ方、無常観、美意識などを読み取り、その特色を理解することで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した。〈【第 1 号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。】〉	P.34～43
方丈記	時代背景や、筆者の抱く無常観を理解し、筆者の生き方にも注目することで、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、真理を求める態度や豊かな情操、道徳心を培い、健やかな身体を養うことを目指した。〈【第 1 号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。】〉	P.44～51
源氏物語	我が国の古典文学を代表する作品であり、現代にさまざまな形で伝わる古典作品を読むことで、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、真理を求める態度や豊かな情操、道徳心を培うことを目指した。〈【第 1 号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。】〉	P.62～71,P.137～174
大鏡	実在の人物の事績や歴史的なできごとを描く「歴史物語」の特徴を理解することで、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、真理を求める態度や豊かな情操、道徳心を培うことを目指した。〈【第 1 号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。】〉	P.72～79, P.196～212
堤中納言物語	虫を愛でる姫君の様子や考え方を読み取ることで、生命を尊び、自然を大切にすることを目指した。〈【第 4 号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与することを養うこと。】〉	P.175～177
古典の扉	古典に関する知識を深めたり、古典文学の変遷について触れたりした文章を読むことで、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する精神を養うことを目指した。〈【第 5 号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与することを養うこと。】〉	P.52,P.89,P.112,P.185, P.217
漢文編		
史記	史実と文学的創作とが交錯する歴史小説的な作品を読み、文章表現の巧みさを味わうことで、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、真理を求める態度や豊かな情操を培うことを目指した。〈【第 1 号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。】〉	P.25～39, P.124～146
儒家・道家の思想、思想と寓話	中国の思想の柱を形成し、我が国でも広く受け入れられ、読み継がれている思想において重要視されている点を読み取ることで、個人の価値を尊重してその能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した。〈【第 2 号 個人の価値	P.50～61,P.147～166

	<p>を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。】</p> <p>道義的理想を掲げ、それによって社会の秩序の確立を目指した儒家の思想に触れることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した。【第 3 号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。】</p>	
人虎伝	<p>我が国における小説等の典拠となった作品を読み味わい、また小説等と読み比べることで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した。【第 5 号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。】</p>	P.66～73
日本の漢詩文	<p>中国の漢詩文に基づいて作られた日本の漢詩文を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養うことを目指した。【第 5 号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。】</p>	P.74～78
「三国志」の世界	<p>歴史を書き記した文章を正確に読み解いたり、登場人物の描かれ方に着目したりすることで、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、真理を求める態度や豊かな情操を培うことを目指した。【第 1 号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。】</p>	P.86～93
魚服記	<p>我が国における古典作品等の典拠となった作品を読み味わい、また古典作品等と読み比べることで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した。【第 5 号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。】</p>	P.118～122
捕蛇者説	<p>作者が作品を通じて為政者に伝えたかったことを読み取ることで、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した。【第 3 号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。】</p>	P.168～171
師説	<p>師にしたがって学ぶことの重要性を述べた文章を読むことで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した。【第 2 号 個人の価値を尊</p>	P.176～179

	重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。】)	
古典の扉	古典に関する知識を深めたり、中国文学と日本文学との関わりについて触れたりした文章を読むことで、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する精神を養うことを目指した。〈【第 5 号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。】)	P.24,P.43,P.79,P.94,P.123, P.167

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

上記の記載以外では、特に以下の点に意を用いました。

- ・学校教育法第五十一条二号の「一般的な教養を高め」る目標に供するために、巻末や見返しに、古典に関するカラー資料を豊富に掲載するとともに、コラム「古典の扉」を置いて、伝統的な文化についての理解を深める機会を多く設けました。
- ・学校教育法第三十条第二項の「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養う」目標に供するため、各教材の「学習の手引き」においては、問いを段階的に設定し、学習者の主体的な学習を促すことに意を用いました。

## ①編修趣意書（学習指導要領との対照表）

受理番号	学校	教科	種目	学年
28-8	高等学校	国語科	古典B	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	古B・333/334	高等学校古典B 古文編/漢文編 改訂版		

### 1. 編修上特に意を用いた点や特色

#### （1）教材選定と作成の基本方針

##### 1 古代から近世にわたる各時代の作品に幅広く触れ、さまざまな角度から古典の世界に慣れ親しむことができるような教材選定

教材の選定、教材化に当たっては、国語総合における学習の成果をふまえて、古文・漢文とも、各時代、各ジャンルにわたって、学習者が興味を持って学習することができる、発達段階にふさわしい基本的なものから応用的な読み応えのある文章までを広く選びました。また、教材のジャンルについては、「古文」では、説話・日記・随筆・物語・和歌等に加えて「評論」という範疇での採録を試み、「漢文」では、経・史・子・集の各分野に加えて「日本の漢詩文」を採録しました。

##### 2 言語文化の伝統を知り、その継承と発展につながる、普遍的価値を有する教材

古典に描かれた世界やそこで用いられている言語について、生徒たちが、現代に生きる人間として主体的に考え、思いを深めることができるよう配慮し、さまざまな角度から日本の言語文化の諸相に触れることのできる作品を選びました。

##### 3 読む楽しさを味わい、人間の生き方や心情について、時代を超えた共感を呼び覚まし、読書の幅を広げて人生を豊かにすることのできる教材

描かれた人間の生き方や心情を読むことで、現代に生きる高校生が、自らの想像力や感受性を高められるような作品、人生や社会について思いを巡らすことのできるような作品、古典として時代を超えて訴えかけてくる力がある作品を選びました。

##### 4 定評ある教材と清新な現代的話題の教材との、バランスのよい組み合わせ

従来から教材化されて定評のある作品を基軸としながら、古典の世界について新たな視点を示す清新な作品を教材化し、生徒の興味を無理なく喚起できるように配置しました。

##### 5 読み応えを実感できる教材群

教材化する作品を様々なジャンルから選ぶだけでなく、同時に、一つの作品から多数の章段を選び、並べることによって、対象作品について広く深い理解ができ、古典を読むという経験を強く実感できるように工夫しました。

##### 6 多様な言語活動が具体的に展開できる教材

古典に対する基本的な学習が、教材に即して無理なく進められると同時に、古典の世界を教室の現実即した形で日常的な言語生活の中に取り込んでゆくことができるよう配慮しました。その際、そうした言語活動に、生徒が生き生きと取り組むことができるよう、作業の要点、情報収集の観点などについて具体的に示唆するようにしました。

#### （2）構成と配列の基本方針

古文と漢文とを対象とする「古典B」の性格をふまえ、一つ一つの教材の価値を大切にしながら、学習者がテキストに対し過度の抵抗感を感じることなく、体系的な知識の習得と自発的且つ継続的な学習ができるよう、この教科書では次の

ような構成で教材の配列をしました。

## 1 全体の構成

学習の流れを重視し、古文編と漢文編の二分冊としました。さらに各編を、二次以降三年次までの使用という観点から、大きく二部構成とし、生徒の発達段階に即した学習指導ができるよう教材の配列に工夫を凝らしました。

## 2 教材選定の観点、教材理解のための工夫

教材をそれぞれのジャンルの特徴がはっきり理解できるよう位置づけると同時に、それぞれの教材の主題や文体が自然な形で学習者に受け入れられるよう、清新な感動を与えることのできる作品、章段を選びました。また、テキストに対する抵抗感が過ぎたものにならぬよう留意するとともに、視覚的な情報がテキスト理解をよい形で補完することになるよう、採録する写真や図版を精選し、レイアウトにも意を用いました。

## 3 単元構成について

①古文編は、第一部を十単元、第二部を五単元構成としました。第一部第一単元は、導入として「説話」を置くことで、国語総合での学習の成果を受けて、より深く古文を学んでいくということを学習者に示しました。また、第一部第五単元にも「説話」を設け、分量・内容の両面において読み応えのある教材を並べました。さらに、「和歌十六首」と「近世俳諧」の間に「連歌」を教材化して置くなどの工夫を凝らしました。第一部において日本の古典文学の全体像に迫ることができるよう、時代とジャンルの両観点から作品を組み合わせて教材化しました。それに対して第二部では、「随筆」「物語」「日記」「評論」で構成しています。特に『枕草子』『源氏物語』『大鏡』からはそれぞれ十教材程度を配し、個々の作品の個性について広く深い理解ができ、古文を読むという経験を強く実感できるように工夫しました。また、「評論」単元では、和歌や俳諧、能や物語などを対象とした文章を並べ、古文を読み解く多様な視点や、古典的伝統的世界から現代に通じる視座を、学習者自身が生き生きと感得できるようにしました。

②漢文編は、第一部、第二部いずれも七単元の構成としました。第一部、第二部ともに、第一単元には、よく知られた「小話」を置き、漢文の世界に親しむことができるようにし、以下、漢詩、文章、史伝、思想、小説を、学習者の発達段階に即して適宜配しました。また、第一部には「日本の漢詩文」という単元を設け、日本人が受容した中国の文学、文化の全体像とともに、日本人自身が作り上げた漢字文化の姿をも、明らかにすることができるようにしました。

③古文編、漢文編とも、教材の内容等に即して適宜「古典の扉」というコラムを置き、古典への興味・関心を広げることができるようにしました。

## 4 教材の配列

教材の配列は、生徒の学習意欲を高め興味を持って取り組めるよう変化に富むものとし、また、発達段階に合わせて、平易な親しみやすいものから、次第に抽象化された読解・思索に堪えるものというように、配列の順序には特別に意を用いました。

## 5 言語事項について

古典読解のために欠かせない知識や語彙、古典独特の言い回しや仮名遣い、あるいは文法事項などについては、それぞれの教材に即して、「学習の手引き」「脚注」「脚問」などによって、体系的学習指導をはかれるよう配慮しました。

## 6 学習指導についての配慮

①学習の手引き……原則として、各教材の末尾に設け、内容を理解するための項目、その理解をより深め、あるいはより広がりのあるものにするための活動を、問いや作業の指示の形で適宜盛り込みました。内容理解のための活動と、内容に即した語彙、文法学習とが、相互に関連した形で展開できるよう特に留意しました。

②語句……古文編採録の教材本文中から、古文理解の上で基礎となると思われる語句を選び出し、本文に\*印を付した上で、原則として見開きごとで脚注欄に示しました。

③句法……漢文編採録の教材本文中から、漢文理解の上で基礎となると思われる基本的な句法を選び出し、本文に\*印を付した上で脚注欄に掲げました。

④脚注……生徒が容易に調べられるものや文脈から類推できるようなものは除き、生徒の自発的学習を促すことを意識しながら、わかりやすい注を施しました。

⑤脚問……「★」印を用いて、脚注欄に据えました。「脚問」は「学習の手引き」と有機的に関連させてありますが、読解過程の部分的な問題点に気づかせ、それを全体へと展開させていく手がかりと位置づけました。これは学習上の補助的なもので、学習者の主体性や問題意識の芽を摘み取ることのないように配慮しました。

## 7 用字・用語・表記について

①送り仮名は、「送り仮名の付け方」（昭和四十八年六月十八日付内閣告示第二号）に定められている「本則」および「例外」によりました。

②常用漢字以外の漢字については、原則として本文教材ごとの初出に振り仮名をつけました。

③常用漢字であっても、「常用漢字表」以外の音訓を使用している場合は、教材初出で振り仮名をつけました。また、常用漢字表内の音訓でも固有名詞など読みにくいもの、迷いやすいものなどには教材初出で振り仮名をつけました。

④仮名遣いは、本文については歴史的仮名遣いとし、解説等口語体の文章は現代仮名遣いとししました。振り仮名も同様です。

⑤外国地名・外来語などのカタカナ表記については、「外来語の表記」（平成三年六月二十八日付内閣告示第二号）に従いました。

## 8 写真・挿絵・図版等について

教材の読解や鑑賞の補助的資料として、鮮明な写真、要を得た挿絵、見やすい図版等を必要に応じて掲載しました。

## 9 付録・その他

付録は必要性和有用性、見やすさ・理解しやすさ・利用しやすさに配慮して、読解・鑑賞・調査・発展学習などのために、工夫して掲載しました。

①古文編の巻末部には、「古典文法要覧」「古典文学史年表」を、資料として「装束」「住居・調度」「陰暦」「古時刻・古方位ほか」、見返しには、「旧国名・都道府県名対照図」「京都付近地図ほか」「平安京条坊図」などの付録を付しました。

②漢文編の巻末部には、「漢文の基本形式」を、資料として「春秋時代要図ほか」、見返しには、「中国参考地図」「漢文参考略年表」を付しました。

## 2. 対照表

図書の構成・内容(教材名)	学習指導要領の内容	該当箇所
<b>古文編 第一部</b>		
宇治拾遺物語	読むア・ウ 言語活動例ウ	P.6～7
十訓抄	読むア・ウ	P.8～9
今物語	読むイ 言語活動例エ	P.10～11
枕草子	読むア・エ 言語活動例ア	P.12～18
竹取物語	読むア・ウ 言語活動例ウ	P.19～23
伊勢物語	読むイ・ウ	P.24～31
大和物語	読むイ・ウ 言語活動例ウ	P.32～33
徒然草	読むウ・エ	P.34～43
方丈記	読むイ・エ 言語活動例ウ	P.44～51
古今著聞集	読むイ	P.53～54
発心集	読むイ	P.55～57
古本説話集	読むイ	P.58～61
源氏物語	読むウ・エ 言語活動例ウ	P.62～71

大鏡	読むウ・オ 言語活動例ウ	P.72～79
更級日記	読むウ	P.80～81
建礼門院右京大夫集	読むア・イ 言語活動例ウ	P.85～88
平家物語	読むウ・エ 言語活動例ウ	P.90～97
和歌十六首	読むア・オ 言語活動例エ	P.98～105
水無瀬三吟百韻	読むエ	P.106～107
近世俳諧	読むエ	P.108～111
笈の小文	読むウ	P.113～114
西鶴諸国ばなし	読むイ・エ 言語活動例ウ	P.115～119
<b>古文編 第二部</b>		
枕草子	読むウ・エ 言語活動例ウ	P.120～136
源氏物語	読むウ・エ 言語活動例ウ	P.137～174
堤中納言物語	読むイ・ウ	P.175～177
住吉物語	読むア・イ 言語活動例ウ	P.178～181
しのびね	読むイ・ウ	P.182～184
蜻蛉日記	読むウ	P.186～189
和泉式部日記	読むウ	P.190～192
紫式部日記	読むウ	P.193～195
大鏡	読むウ・オ 言語活動例エ	P.196～212
栄花物語	読むイ・ウ 言語活動例ウ	P.213～216
古今和歌集仮名序	読むウ・エ	P.218～219
俊頼髓脳	読むイ・エ	P.220～221
無名草子	読むウ	P.222～225
無名抄	読むウ	P.226～227
毎月抄	読むウ	P.228～229
正徹物語	読むア・ウ 言語活動例ウ	P.230～233
風姿花伝	読むウ 言語活動例ウ	P.234～235
去来抄	読むウ 言語活動例ウ	P.236～238
難波土産	読むウ	P.239～240
玉勝間	読むウ	P.241～242
源氏物語玉の小櫛	読むウ 言語活動例ウ	P.243～245
古典の扉	読むエ・オ	P.52,P.89,P.112,P185, P.217
<b>漢文編 第一部</b>		
漱石枕流	読むア・オ 言語活動例ア	P.6
畏饅頭	読むイ・オ	P.7～8
糟糠之妻	読むウ・エ 言語活動例ウ	P.9
紀昌貫虱	読むイ 言語活動例イ	P.10～11
王昭君	読むイ	P.12～13



不顧後患	読むイ	P.14～15
漢詩(近体詩)	読むア・エ・オ 言語活動例エ	P.16～23
史記	読むウ・エ 言語活動例ア・ウ	P.25～39
漁父辞	読むウ・エ 言語活動例ウ	P.40～42
春夜宴桃李園序	読むア・エ	P.44～45
愛蓮説	読むウ	P.46～47
送薛存義之任序	読むウ	P.48～49
儒家・道家の思想	読むウ・エ・オ 言語活動例エ	P.50～61
売鬼	読むイ・エ	P.62～63
陸機之犬	読むア・イ 言語活動例ウ	P.64～66
人虎伝	読むエ・オ 言語活動例イ	P.67～73
日本の漢詩文	読むエ・オ 言語活動例エ	P.74～79
<b>漢文編 第二部</b>		
孟母断機	読むイ・ウ 言語活動例エ	P.80～81
不死之薬	読むイ 言語活動例ウ	P.82～83
江南橋為江北枳	読むイ	P.84～85
「三国志」の世界	読むイ・ウ・オ 言語活動例ウ	P.86～94
漢詩(古体詩)	読むエ・オ 言語活動例エ	P.96～111
人面桃花	読むイ	P.112～114
三夢記	読むイ 言語活動例イ	P.115～117
魚服記	読むイ・オ 言語活動例イ	P.118～122
史記	読むウ・エ 言語活動例ウ	P.124～146
思想と寓話	読むウ・エ・オ 言語活動例ウ	P.147～166
捕蛇者説	読むウ	P.168～171
赤壁賦	読むウ	P.172～175
師説	読むウ・エ	P.176～179
古典の扉	読むオ	P.24,P.43,P.79,P.94,P.123, P.167

#### 学習指導要領「古典B」の内容

##### 指導事項

- ア 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。
- イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。
- ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。
- エ 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。
- オ 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること。

##### 言語活動例

- ア 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告すること。
- イ 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること。
- ウ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。
- エ 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、さまざまな資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりすること。